

目 次

介護福祉科 2年

A 厚生労働省指定科目

人間関係とコミュニケーション (コミュニケーション概論Ⅱ)	吉 田 忠 司	3
社会の理解 (家族福祉論)	池田 ひろみ	4
社会の理解 (地域福祉論)	池田 ひろみ	5
社会の理解 (社会保障論)	大 友 駿	6
社会の理解 (障害者の自立を支える制度)	吉 田 陽 子	7
社会の理解 (介護実践に関する諸制度)	大 友 駿	8
介護の基本 (介護概論Ⅱ)	長 屋 敦 志	9
介護の基本 (生活文化論)	奥 寺 光 子	10
コミュニケーション技術演習Ⅱ	山 根 英 香 吉 田 重 子	11
生活支援技術 (住環境整備の視点)	村 中 敬 維	12
生活支援技術 (移動Ⅱ)	長 屋 敦 志	13
生活支援技術 (食事Ⅱ)	吉 田 陽 子	14
生活支援技術 (排泄Ⅱ)	吉 田 陽 子	15
生活支援技術 (家政Ⅱ)	辻 慶 子	16
生活支援技術 (終末期ケア)	奥 野 啓 子	17
生活支援技術 (リハビリテーションⅡ)	伊 藤 隆	18
生活支援技術総合Ⅱ	小 野 千 晴	19
介護過程Ⅱ	小 野 千 晴	20
介護総合演習Ⅱ	小 野 千 晴	21
介護実習Ⅱ	小 野 千 晴	22
こころとからだのしくみⅡ	赤 坂 結 美 子	23
発達と老化の理解 (老齡健康論Ⅱ)	奥 野 啓 子	24
認知症の理解Ⅱ	宮 下 史 恵	25
障害の理解 (障害者福祉各論Ⅱ)	藪 中 弘 美	26
医療的ケアⅠ①～⑤	藪 中 弘 美 高 橋 春 美	27
医療的ケアⅡ①～④	赤 坂 結 美 子 矢 野 由 紀	28
医療的ケア演習①～③	赤 坂 結 美 子 高 橋 春 美 矢 野 由 紀 藪 中 弘 美	29

B 本校独自教科

国語総合演習Ⅱ	浦田 日出雄	……………	30
応対論Ⅱ	三品 あおい	……………	31
体育Ⅱ	浦田 日出雄	……………	32
レクリエーションⅡ	長 江 集 子	……………	33
就職ガイダンスⅡ	小 野 千晴	……………	34
国家試験対策	長 屋 敦 志	……………	35
介護技術検定	柳沼 輝 己	……………	36

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
人間関係とコミュニケーション (コミュニケーション概論Ⅱ)	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 忠司	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
対人関係におけるコミュニケーションについて学びます。介護福祉士として求められるコミュニケーションや介護実践におけるチームマネジメントについて理解をします。		
到達目標		
1 対人関係におけるコミュニケーションを理解する。 2 介護実践におけるチームマネジメントの意義と役割を理解する。		
受講の心構え		
人間関係とコミュニケーションは、仕事をする上で必ず求められます。コミュニケーションの基本的理解をすると同時に介護福祉士として介護実践に活かせる知識を身につけましょう。講義と演習で実施します。		
成績評価基準		
筆記試験 80%、提出物・授業態度 20%		
授業計画表		
1 オリエンテーション 2 対人関係における価値・倫理 3 自己覚知 4 介護実践におけるチームマネジメントの意義① 5 介護実践におけるチームマネジメントの意義② 6 ケアを展開するためのチームマネジメント① 7 ケアを展開するためのチームマネジメント② 8 人材育成・自己啓発のためのチームマネジメント① 9 人材育成・自己啓発のためのチームマネジメント② 10 組織の目標達成のためのチームマネジメント① 11 組織の目標達成のためのチームマネジメント② 12 組織の目標達成のためのチームマネジメント③ 13 コミュニケーション演習① 14 コミュニケーション演習② 15 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『介護福祉士養成講座 1 人間の理解』中央法規出版 授業開始時に配布資料あり		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（家族福祉論）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
池田ひろみ	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
日本の社会における「家族」「家庭」の現状と課題を理解する。 現代社会における「家族」のあり方、「家庭」の役割と意義について考える。 自分にとっての「家族」と「家庭」について理解し、将来像を想像する。		
到達目標		
「家族」「家庭」の現状を把握して、自分自身にとっての課題を抽出する。 自分の将来について深く冷静に考え、客観視する力を養う。 高齢者（特に要介護高齢者）とその家族について、現状を理解し、介護の際の基本姿勢に役立てる。		
受講の心構え		
配付資料は、ファイリングして全授業に持参し活用すること。 自分の意見を他者に伝える努力を惜しまず、積極的に発言する機会を作り、表現する習慣を身につけること。 課題に集中して取り組む姿勢を身につけること。		
成績評価基準		
授業内の課題 30%、授業内の発言内容・態度 30%、筆記試験 40%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 自己紹介とオリエンテーション「福祉とは」「家族とは」「家庭とは」2. 現代日本の「家族」「家庭」の状況を理解する3. 「家族」「家庭」の定義と、専門用語を理解する4. 家系図を作成する<ul style="list-style-type: none">・自分のこれまでの家族像を確認する・自分の将来の家族像を予想し、自分の人生設計を見つめる5. 日本社会の将来像を予想し、その課題を探る6. 高齢者のおかれている状況を理解し、その将来像を予想し、課題を探る7. 家族の絆、地縁・友縁の重要性を理解する8. まとめ これからの自分と自分を取り巻く他者の人生について具体的に考える		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規出版 授業内で、適宜新聞記事等を配布します 授業内で、適宜参考文献を紹介します		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（地域福祉論）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
池田ひろみ	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	「地域」「地域福祉」について基本的知識と専門用語を理解する。 地域社会の中で生きていることを踏まえ、地域社会と自分・自分の家族とのかかわりを考える。 自分の身近な問題や課題を、社会との関わり視点で客観的に考える習慣を身につける。	
到達目標	「地域」「地域社会」について理解し、自分自身の仕事や生活に役立てる。 自分の意見や感想を他者に伝えるために言葉で表現する力を養う。また、他者の意見や感想を知り、自分の意見に反映させる力を身につける。 地域社会の一員として生きていく心構えを養う。	
受講の心構え	配付資料は、ファイリングして全授業に持参し、活用すること。 自分の意見を他者に伝える努力を惜しまず、積極的に発言する機会を作り、表現に努めること。	
成績評価基準	授業内の課題 30%、授業内の発言内容と態度 30%、筆記試験 40%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 自己紹介とオリエンテーション「福祉とは」「地域とは」「地域福祉とは」を考える2. 地域社会の現状について理解する：過疎化、超高齢化、少子化、限界集落3. 地域社会の現状について理解する：孤立化、地域住民の絆、地縁と他縁・友縁4. 地域福祉の課題と将来像について理解する5. 地域福祉の担い手について考える：公的機関（役所・社会福祉協議会・地域包括支援センター等）6. 地域福祉の担い手について考える：住民共助、ボランティア活動、生活支援体制7. 地域福祉の担い手について考える：町内会、民生委員、児童委員・生活支援員等8. まとめ これからの地域福祉のあり方と、自分にできることを考える	
使用テキスト・参考文献	悔悟福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規出版 授業中に、適宜新聞記事等の資料を配付します。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（社会保障論）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
大友 駿	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
本科目は、個人が地域社会において生活していくために必要となる支援や制度について理解を深めることを目的とした科目です。本講義では、わが国の社会保障制度を体系的に理解することを基本目標とし、その上で、人々のライフステージの中で生じる生活上の諸課題と具体的な制度の関連性について説明できるようになることを科目のねらいとします。		
到達目標		
1. わが国の社会保障各制度について理解し、自分の言葉で説明することができる。 2. 人々の生活上の諸課題とそれに対応する社会保障制度がどのように関連しているのか説明することができる。		
受講の心構え		
社会保障制度が、自分や対象者のライフステージにおいてどのように関係しているかについて意識して受講してください。 また、配布資料が多いため、授業の回ごとにファイリングすると良いでしょう。		
成績評価基準		
定期試験 80%、授業態度 20%		
授業計画表		
1. 社会保障の概念・機能 2. 社会保障の歴史 3. 年金保険制度 4. 医療保険制度 5. 雇用保険制度 6. 労働者災害補償保険制度 7. 社会手当制度 8. まとめ ※進行状況により順序を変更する場合があります		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2 社会の理解（第2版）』中央法規出版教科書に加えて、毎回授業開始時に配布する資料を元に授業を進めます。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（障害者の自立を支える制度）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 陽子	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障害者福祉施策における障害のとらえ方、障害者を取り巻く現状や障害者福祉サービスについての基礎知識を学び、障害者の自立を支える介護実践について考えることができる。		
到達目標		
1. 障害者福祉施策における障害のとらえ方が理解できる。 2. 障害者福祉の理念やその背景が理解できる。 3. 障害者福祉の歴史や現状、動向が理解できる。		
受講の心構え		
複雑な法体系や制度について難しく感じますが、必要不可欠な知識です。主体的に学びましょう。		
成績評価基準		
筆記試験 90%、提出物・授業態度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション／障害者福祉施策における障害のとらえ方 2. 障害者福祉の歴史、現状と動向 3. 障害者福祉の法体系 4. 障害者総合支援制度のしくみ① 5. 障害者総合支援制度のしくみ② 6. 障害者総合支援制度のしくみ③ 7. 障害者総合支援制度のしくみ④ 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（介護実践に関する諸制度）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
大友 駿	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
本科目は、個人が地域社会において生活していくために必要となる支援や制度について理解を深めることを目的とした科目です。本講義では、介護実践における対象者の権利擁護に関わる制度を体系的に理解することを基本目標とし、各制度について理解した内容を自ら説明できるようになることを科目のねらいとします。		
到達目標		
1. 介護実践における対象者の権利擁護に関わる諸制度について理解し、自分の言葉で説明することができる。 2. 対象者の生活上の諸課題とそれに対応する制度がどのように関連しているのか説明することができる。		
受講の心構え		
制度の理解のために、法律を正しく読み込む必要があります。授業内で解説する法律の読み方を習得した上で、各制度の理解を深めてください。 また、配布資料が多いため、授業の回ごとにファイリングすると良いでしょう。		
成績評価基準		
定期試験 80%、授業態度 20%		
授業計画表		
1. 成年後見制度① 2. 成年後見制度②、日常生活自立支援事業 3. 虐待防止法（高齢者、障害者、児童） 4. 生活保護法① 5. 生活保護法② 6. 医療関連法規 7. 個人情報保護法 8. まとめ ※進行状況により順序を変更する場合があります		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2 社会の理解（第2版）』中央法規出版教科書に加えて、毎回授業開始時に配布する資料を元に授業を進めます。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
介護の基本 介護概論Ⅱ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士としての姿勢や役割について考え、理解を深める。 ・必要とされるコンプライアンスを意識した働き方の理解を深める。 ・健全な職場環境と利用者の健康や安全を守る取り組みの意義や方法を学ぶ 		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士の職業倫理や活躍の場の特徴と機能、チームケアを理解し、介護福祉士が担うべき役割について考える。 2. 地域連携のあり方やサービス提供のしくみを理解し、広い視野で介護福祉士の役割を考える 3. 安全を確保するための留意点やリスクマネジメントの必要性を理解し、担う役割について考える 		
受講の心構え		
【自ら考え、自分の言葉で表現する】という取り組みを行い、考え行動することができる介護福祉士を目指します。		
成績評価基準		
試験（40％）発表（40％）まとめ資料（20％）による総合評価		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉士の倫理（専門性と倫理、求められる倫理、倫理的問題） 2 介護における感染症対策 ① 3 介護における感染症対策 ② 4 介護におけるリスクマネジメント①（意義と考え方） 5 介護におけるリスクマネジメント②（方法と実際） 6 介護福祉サービスの提供のしくみ①（多職種理解） 7 介護福祉サービスの提供のしくみ②（多職種連携の在り方） 8 介護福祉サービスの提供のしくみ③（地域連携） 9 介護福祉の活躍の場①（居宅サービス） 10 介護福祉の活動の場②（地域密着型サービス） 11 介護福祉の活動の場③（施設サービス） 12 介護福祉の活動の場④（介護保険制度以外でのサービス） 13 介護従事者の健康と安全①（健康管理・法制度） 14 介護従事者の健康と安全②（事故防止・安全対策） 15 <まとめ>介護福祉士の果たすべき役割と求められるスキルとは 		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ』中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
介護の基本（生活文化論）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
奥寺光子	-	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none">・日本の生活様式と日本の文化の学びを通して、人々の暮らしや生活の多様性を理解し、異なる価値観を尊重する態度を養う。・日本以外の国の多様な生活文化にも興味関心を持ち、それぞれの国の誇れる文化や伝統行事を大切にすることが出来るようにする。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none">・札幌だけでなく日本と北海道独自の生活様式や文化を理解すると同時に外国の生活文化の個性や多様性に対しても理解を深める。・授業を通して日本だけでなく、外国の文化に興味関心を持ち、自国の文化を他者に紹介できるようになる。		
受講の心構え		
積極的な発言と授業参加を求めます。		
成績評価基準		
出席及び授業への取り組み状況 30% レポート提出及び発表 70% 総合的に評価します。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション／「生活」「文化」とは何か2. 介護や支援を必要としている人や社会福祉施設の生活・文化と自分の生活・文化の共通点と相違点3. 北海道の暮らしと文化4. 札幌の暮らしと文化5. 日本の行事6. 日常生活のマナー7. まとめと発表①8. まとめと発表②		
使用テキスト・参考文献		
編朝倉晴武『日本人のしきたり』 青春出版 堀川 真『北海道わくわく地図』絵本 北海道新聞社 その他、授業時に資料を配布		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年	演習
科目名	授業回数	授業時間
コミュニケーション技術演習Ⅱ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
山根 英香（第1～10回） 吉田 重子（第11～15回）	（山根）社会福祉士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
（山根）①介護福祉士としての専門的対人援助スキルを理解し演習する。②現場でのチーム力を高めるためのアプローチについて理解し演習する （吉田）点字の書き方の基本を習得するとともに、視覚障害者を取り巻く社会環境、生活上の不便さの一端を学ぶことを通して、よりよい支援の在り方を考えるきっかけとする。		
到達目標		
（山根）介護福祉士の視点で、対人援助場面において適切なコミュニケーションをとることができる。 （吉田）連絡事項や私信など、日常生活上の情報を伝えられる程度の展示を書くことが出来る。/視覚障害の種類、日常生活用具、余暇の利用の可能性など、視覚障害者の生活社会環境の一端を知ることができる。		
受講の心構え		
演習は、学生の皆さんの参加で成立します。積極的に受講されることを期待します。		
成績評価基準		
（山根）講義への出席（25%）参加態度（25%）・小テスト（50%）の割合で総合的に評価 （吉田）レポート課題（60%）、授業への取り組み（発言や毎時行う演習の提出物等）（40%）		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1 ニーズを引き出すコミュニケーション① 2 ニーズを引き出すコミュニケーション② 3 わかりやすい説明と同意① 4 わかりやすい説明と同意② 5 主体者を支援するコミュニケーション① 6 主体者を支援するコミュニケーション② 7 情報を共有するためのコミュニケーション 8 アサーション 9 コミュニケーション力を高めよう 10 総括 11 点訳：展示のしくみ、点字器の使い方、50音の習得（清音、濁音） トピックス：点字の歴史 12 点訳：拗音、拗濁音、数字の習得 トピックス：視覚障害の定義、疾患や見え方等 13 点訳：点字表記法の特徴（女子の表記法等）の習得 トピックス：視覚障害者用日常生活用具（いわゆる便利グッズを含む）の紹介、街中で見かける点字 14 点訳：文の書き方、分かち書きの基本と習得 トピックス：視覚障害者と余暇（映画、読書、スポーツ） 15 点訳：文章の書き方、分かち書きの基本、書式の基本の習得 トピックス：視覚障害疑似体験（日常生活上の動作）、視覚障害者介助に関する基本的な考え方（当事者主体とは） 		
使用テキスト・参考文献		
<p>（山根）介護福祉士養成講座編集委員会 『介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』中央法規出版 （吉田）吉田重子『点字からはじまるメッセージ』北海道新聞出版局</p>		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（住環境整備の視点）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
村中 敬維	-	
科目のねらい		
バリアフリーや住宅改修などに関する基本的な知識を身につけるとともに、実際の福祉現場に対応する人間力の向上を目指します。さらに100点満点の正解がない現実の住宅改修実例の問題に取り組む中で、考える力を身につける事を最大の目標とします。		
到達目標		
基本的な知識の習得と共に、障がい者の生活を知り、支援内容と住宅改修の実例を通して専門性を身につける内容とします。 介護現場において、自らが考え判断していく基礎的な能力を身につけるため、グループワーク形式の演習を行います。		
受講の心構え		
質問、意見などの積極的な発言を期待します。授業中の質問等によりポイント加点します。積極的に授業に参加することを望みます。		
成績評価基準		
レポートにより評価します。また、授業に積極的に参加していただいた場合は加点いたします。		
授業計画表		
1. オリエンテーション、住環境の整備 その1		講義
2. 車いすの自走による体験学習及びその振り返り		実習
3. 住環境の整備 その2		講義
4. 障がい者の住生活に関する実例検討 演習1 その1		演習
5. 障がい者の住生活に関する実例検討 演習1 その2		演習
6. 障がい者の住生活に関する実例検討 演習2 その1		演習
7. 障がい者の住生活に関する実例検討 演習2 その2		演習
8. 障がい者の住生活に関する実例検討 演習2 その3		演習
使用テキスト・参考文献		
「生活支援技術1」（中央法規）学校指定の書籍、その他資料はこちらで用意いたします。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（移動Ⅱ）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
移動が、その人の生活・人生の中でどのような意味を持つのか、単なる介護技術ではなく、自立支援の視点から考え、実践することができる力を学んでいきます。		
到達目標		
1. 介護技術を用いるための身体の使い方や身体的構造が理解できる。 2. 生活のなかで移動の持つ意味を理解し、生活に合わせ介護の実践ができる。 3. 移動介護の自立支援とは何かを考え、実践することができる。 4. 人の生活を総合的に理解し、介護を実践することができる。		
受講の心構え		
介護福祉士として総合的に考えられる人になります。 そのために身体を動かす前に、利用者の気持ちが動く介護を考えます。 気持ちが動くために、何が必要なのか一緒に学びましょう。		
成績評価基準		
実技習得度 50%・試験（30%）・レポート、ミニテスト 20%による総合評価		
授業計画表		
1. 1年次の振り返り。移動介護の基本（ボディメカニクス・利用者主体） 2. 実技確認 ～ 起居動作と移乗の介護 声掛けと支えが必要な人への技法 3. 実技確認 ～ 起居動作と以上の介護 介助量の多い場合の声掛けと技法 4. 自然な身体の動かし方～寝返り動作と安楽な姿勢～ 5. 自然な身体の動かし方～座位・歩行～ 6. 自然な身体の動かし方～立ち上がりと移乗動作～ 7. 事例に対応した移動の介護 観察とアセスメント 8. 事例に対応した移動の介護 実践報告		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（食事Ⅱ）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 陽子	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
身体機能・感覚機能低下や嚥下障害、認知症の方等、その状態に応じた適切な食事介護の技術を習得する。食生活を通して、利用者の安全・安心・生活の充実、QOLの向上を支える介護福祉士の役割を考えることができる。		
到達目標		
1. 利用者の心身状態を考慮した安全で的確な食事介護を自立支援の視点で習得する。 2. 学んだ知識・技術や実習体験を基に利用者の食生活の充実を目指す介護のあり方について考え、理解を深める。		
受講の心構え		
その人らしい生き方につながる食事介護のあり方について考えながら学びましょう。		
成績評価基準		
実技演習の取り組み・事例検討に関する提出物 60%、小テスト 30%、授業態度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション／1年次の振り返り 2. 食事介護のアセスメント（事例検討） 3. 感覚機能が低下している利用者への食事介護（事例検討・実技） 4. 運動機能が低下している利用者への食事介護（事例検討・実技） 5. 認知症の利用者への食事介護（事例検討・実技） 6. 嚥下障害の利用者への食事介護（事例検討・実技） 7. 安全・安心と食生活の充実、QOLの向上を考える 8. <まとめ>食生活を支える介護福祉士の役割について考える（グループワーク）		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（排泄Ⅱ）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 陽子	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
利用者の状態に応じた排泄介護の工夫を考え、排泄の状態と生活状況全般との相互関係を理解し、QOLの向上を視野に入れた排泄介護のあり方を考える視点を身につける。		
到達目標		
1. 利用者の状態に応じた排泄介護の方法を学び、留意点を意識しながら介護の工夫を考えることができる。 2. 排泄介護を通して、利用者のQOLの向上を考えることができる。		
受講の心構え		
様々な事例を通して介護の工夫を考えることで、尊厳に配慮し、利用者の状況に応じた排泄介護を主体的に学んでください。		
成績評価基準		
実技演習の取り組み・事例検討に関する提出物 60%、小テスト 30%、授業態度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション／1年次の振り返り 2. 排泄に関するさまざまな介護の基礎知識（自己導尿・座薬・浣腸） 3. 排泄に関するさまざまな介護の基礎知識（ストーマなど） 4. 事例検討・実技演習① 5. 事例検討・実技演習② 6. 事例検討・実技演習③ 7. 事例検討・実技演習④ 8. 事例検討・実技演習⑤		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（家政Ⅱ）	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
辻 慶子	-	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 被服管理の意義を理解し、基本的な技術を習得する。 2. 使用する用具等の構造や特性を理解し、安全で適切な使用方法を習得する。 3. 実生活においても状況に応じて適切な方法で衣服の補修ができるようにする。 		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎縫いにおいて、基本的な衣服の補修方法と安全な用具の使用方法を習得する。 2. ミシンの構造を理解し、基本的な操作ができるようにする。 		
受講の心構え		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前は、プリントを確認し説明をよく聞いてから、作業を始めること。 2. 実習時は、常に周りにも配慮して安全に行うこと。 3. 作品は、完成したものを期日までに必ず提出すること。 		
成績評価基準		
提出物80%、授業態度（道具の使い方・後片付け等）20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 オリエンテーション・用具の使い方や管理の仕方 2. 講義 ミシンの構造と取り扱い方 3. 実習 基礎縫い（ミシン縫い・アイロンのかけ方） 4. 実習 基礎縫い（手縫いの基礎・衣服の修理方法） 5. 実習 基礎縫い（手縫いの基礎・衣服の修理方法） 6. 実習 基礎縫い（手縫いの基礎・衣服の修理方法） 7. 実習 基礎縫い（手縫いの基礎・衣服の修理方法） 8. 実習 基礎縫い（手縫いの基礎・衣服の修理方法） 9. 実習 基礎縫い（手縫いの基礎・衣服の修理方法） 10. 実習 応用作品（ミシン縫いの復習） 11. 実習 応用作品（ミシン縫いの復習） 12. 実習 応用作品（ミシン縫いの復習） 13. 実習 応用作品（ミシン縫いの復習） 14. 実習 応用作品（ミシン縫いの復習） 15. 実習 応用作品（ミシン縫いの復習） 		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリント配布		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（終末期ケア）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
奥野啓子	-	
科目のねらい		
1. 人生の最終段階における心身の変化を理解し、介護者としての心構えや考え方を学ぶ。 2. 終末期における尊厳を支える介護を考えることができる。		
到達目標		
1. 人生の最終段階における心身の変化が理解できる。 2. 尊厳を支える介護について、自分の死生観と合わせて考えることができる。		
受講の心構え		
課題はグループワークでします。グループメンバーが課題ごとに交代で板書と発表を担当するので、それぞれの役割を認識し積極的に取り組んでください。課題は最終日に提出してもらいます。		
成績評価基準		
筆記試験 80% 演習 20% 平常点加減があります。		
授業計画表		
1. 終末期の定義と終末期を向かえる疾患 2. 人生の最終段階におけるアセスメントの視点 3. 全人的苦痛・死の受容過程 4. 苦痛への緩和ケア 5. 死をむかえる人の日常生活の変化とケア 6. 死が近づいた時の身体症状への対応 7. 死を向かえた人の介護、グリーフケア 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ』中央法規 介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ』中央法規 初回授業時に資料を配布します。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術 リハビリテーションⅡ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
伊藤 隆	-	
科目のねらい		
代表的な疾患ごとに障害を理解しながら、各日常生活動作における介護のポイントを適切に実践できるようにする。また関節の動かし方や筋緊張の緩め方、基本動作の演習を通じ実践的な介護技術を習得する。		
到達目標		
1. 疾患の特性と障害像を理解する 2. 障害の特性や重症度に応じた介護技術を習得する 3. 基本動作や日常生活動作ごとに適切な介護技術を提供できるようにする		
受講の心構え		
毎回、講義の最後に小テストを実施して理解の確認を行ないます。 授業は集中して受講し、私語は慎み他人に迷惑のかからないようにしましょう。		
成績評価基準		
期末テスト		
授業計画表		
1. 脳卒中片麻痺に対する介護支援技術（その1） 2. 脳卒中片麻痺に対する介護支援技術（その2） 3. パーキンソン病とその他の神経疾患に対する介護支援技術 4. 脊髄損傷四肢麻痺と対麻痺に対する介護支援技術 5. 実技（1）関節の動かし方・姿勢筋緊張の緩め方・ポジショニング 6. 実技（2）ベッド上移動・寝返り・起き上がり・座位 7. 実技（3）：立ち上がり・移乗・歩行 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
スライドと配布資料		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術総合Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護福祉士に必要なのは、知識と技術だけではありません。さまざまな対象者に対し、多職種がチームをつくり、自分の体験を伝え、他者の考えを受け止め、多くの気づきができる介護福祉士を目指します。適切な報告、連絡、相談ができることも目指します。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none">・根拠に基づく介護を考えられる。・対象者の状態を体験し、気づきのある介護ができる。・目的に合わせ、選択肢を持った考え方ができる。・将来を予測した介護を考え、実践力を養う。・方法だけでなく、対象者の求めていることは何かを考えることができる。・自分の考えを他者に伝えることができる。		
受講の心構え		
自主性を重んじます。未来の姿を想像し、自分で考え、行動してください。		
成績評価基準		
実習報告会80% 提出物10% 受講姿勢10%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 実習目標発表（実習事前集中指導におけるグループ目標の発表）2. 介護実習Ⅱ実習実践報告会（事例に基づく根拠ある介護とは）3. 介護実習Ⅱ実習実践報告会（事例に基づく根拠ある介護とは）4. 実習目標発表（実習事後集中指導におけるグループ目標達成度発表）5. 1年生介護実習Ⅰ目標の発表（アドバイザーとして参加）6. 1年生実習事前報告会（アドバイザーとして参加）7. 1年生実習事前報告会（アドバイザーとして参加）8. 1年生介護実習Ⅰ目標の達成度発表（アドバイザーとして参加）		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座1～15』中央法規を適宜使用。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
介護過程Ⅱ	38回	75時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	その人らしさとは何か、将来を見据えた介護を考えることができるようになるための授業です。情報収集、判断・解釈・課題の明確化、介護計画の立案、実施、評価という一連の過程を実施し、根拠を理解します。誰が読んでもわかりやすい記録が書け、チームで目的を共有することができるようになることを目指します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・利用者の状態を正しく理解するための観察方法、アセスメントを理解することができる。・QOL とは何かを学び、根拠ある介護がどのように実践されているのか、個別介護とは何かを理解することができる。・チームアプローチについて考え、多職種協働とは何かを理解することができる。	
受講の心構え	<ul style="list-style-type: none">・介護福祉士が実践する介護を学びます。できないからこそ、挑戦してください。	
成績評価基準	ケーススタディ（実習前・実習中・実習後）40% ケーススタディ論文 50% 授業態度 10%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1～2. オリエンテーション、振り返り3～4. 記録の書き方5～6. 事例検討（対象者検討、決定）7～8. 事例検討（アセスメント）9～10. 事例検討（介護計画立案）11～13. 実習で取り組むケーススタディについて14～23. ケーススタディ（記録整理、再アセスメント、再計画）24. ケーススタディ論文作成について25～26. ケーススタディ論文作成（タイトル決め、利用者紹介、決定理由、アセスメント）27～28. ケーススタディ論文作成（介護計画、再アセスメント、再介護計画）29～30. ケーススタディ論文作成（全体を通して）31～33. ケーススタディ発表準備34～36. ケーススタディ発表（1年生見学予定）37～38. まとめ	
使用テキスト・参考文献	介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座9介護過程』中央法規 必要に応じて他テキスト、ケーススタディ、インターネットを活用。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
介護総合演習Ⅱ	23回	45時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護実習Ⅱは利用者主体、その人らしさ、自立支援とは何かを学びます。実習に向けて、日々提供される介護の根拠を理解し、過去から現在、未来と続く人生を考えた介護実践ができるようになるための授業です。さまざまな知識や自分の経験を活かし、【人】を総合的に考えていきます。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none">・自己を客観的に振り返り、介護福祉士として自己覚知することができる。・介護実習Ⅱに向けて、学びたいことと学ばなければならないことを明確にし、実習目標と実行計画を立てることができる。・介護実習Ⅱにおいて、目標の到達度を振り返り、介護福祉士として必要なものは何かを知る。・根拠をもとに未来を考えた介護過程を展開することができる。		
受講の心構え		
スケジュール管理、報告・連絡・相談を徹底してください。苦手なことはどうすればできるのか、考えてください。		
成績評価基準		
提出物の期限40% 提出物の内容40% 授業態度20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション、振り返り2～5. 介護実習Ⅱについて（概要説明、振り返り）6～8. 記録の書き方9～10. 目標作成11～12. 施設理解、事前訪問13. 事前訪問14. 目標作成15. 帰校日について、グループワーク（目標達成に向けて）16. グループワーク（実習目標達成に向けて）17～18. 実習事前集中指導（目的、到達レベル、心構え、提出物確認）19～20. 帰校日指導（進捗状況確認、礼状指導）21～23. 実習事後集中指導（振り返り、礼状指導、今後すべきこと）		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会 『最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習』 中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
介護実習Ⅱ	30日間	240時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none">・利用者主体の援助、自立支援を目指した考え方、実践方法を学ぶ。・本当に必要とする援助は何かを導き出す考え方を学ぶ。・基本から応用できる実践力を身に付ける。・実践的に個別ケアを学ぶ。・様々なニーズに対して、根拠ある介護実践を理解する。・多職種連携や協働、統一された介護方法を実践するための取り組みについて学ぶ。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none">・知識、技術に基づいて、利用者との人間的なかわりを深め、利用者の求める介護ニーズの理解力、介護の根拠を導き出すプロとしての判断力が身に付く。・実習指導者より介護計画の立案や実施、記録について指導を受け、チームの一員としての介護を遂行することができる。・施設の役割や機能、その運営やサービス全般における介護職務を理解できる。		
受講の心構え		
知識・技術を統合し、実践から学びます。何事も挑戦し、介護のプロとしての思考を身に付けましょう。		
成績評価基準		
施設評価40% 実習日誌20% ケーススタディ20% 実習レポート20%		
授業計画表		
介護実習Ⅱ 日 時：令和6年6月3日（月）～7月12日（金）期間内30日間※帰校日除く 実習施設：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設 事前訪問日：5月10日（金） 帰校日：6月17日（月）		
使用テキスト・参考文献		
学校配布『実習手引き』、必要に応じてテキストやインターネットを活用。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こころとからだのしくみⅡ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
赤坂 結美子	授業内容にかかわる実務に看護師として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
その人その人に合った生活を支援するために必要な心身の基本的な知識を習得し、安全・安楽な介護実践を考える能力を培う。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる心身のしくみを理解する。 2. 日常生活動作のしくみと心身の機能低下が及ぼす影響について理解する。 3. 日常生活動作に関連した異常の早期発見につながる観察内容を理解する。 		
受講の心構え		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践のエビデンスとなる、こころとからだのしくみを理解することは、自身の介護力を高める大きな力となります。「なぜその介護が必要なのか」の視点を大切に学習を進めていきましょう。 2. 確認テストやまとめは、国家試験や科目試験を意識して取り組みましょう。 		
成績評価基準		
試験(80%)、確認テスト・提出物・授業態度(20%)		
授業計画表		
1～3 身じたくに関連したこころとからだのしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 身じたくのしくみ 2) 機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響 3) 身じたくに関するこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携 4～6 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 入浴・清潔保持のしくみ 2) 機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響 3) 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携 7 中間のまとめ・確認テスト 8～10 排泄に関連したこころとからだのしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄のしくみ 2) 機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響 3) 生活場面における排泄に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携 11～13 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 休息のしくみ 2) 機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響 3) 生活場面における休息・睡眠に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携 14 まとめ・確認テスト 15 最終のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座：11.「こころとからだのしくみ」中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
発達と老化の理解（老齢健康論Ⅱ）	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
奥野啓子	-	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none">1. 高齢者に多い症状・訴えの基礎を理解する。2. 老化に伴う心身の特徴と、高齢者に多く見られる疾患の概要を理解する。3. 日常生活に及ぼす影響、生活上の留意点・援助について考える。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none">1. 老年期に多い症状や疾患の基礎知識が習得できる。2. 日常生活への影響及び留意点について考えることができる。		
受講の心構え		
課題は、授業中に記入する部分と自己学習で作成する内容で構成しています。記入漏れがないよう注意してください。		
成績評価基準		
筆記試験 70% 課題 30% 平常点加減があります。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点の理解（痛み・めまい）2. 老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点の理解（体重減少・食欲不振・しびれ・浮腫）3. 老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点の理解（咳・痰・息切れ・苦しさ・不眠）4. 老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点の理解（便秘・下痢・誤嚥・出血）5. 老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点の理解（脳血管疾患・悪性腫瘍）6. 老年期に多い症状・疾患と生活上の留意点の理解（心疾患・高血圧・糖尿病）7. 課題作成8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解』中央法規 初回授業時に資料をまとめて配布します。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
認知症の理解Ⅱ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
宮下史恵	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。		
到達目標		
1. 本人主体の理念に基づいた認知症ケアが実施できる。 2. 多職種連携や協働を理解し地域支援に関連づけることができる。 3. 認知症の人を支える家族の課題を支援につなぐ説明ができる。		
受講の心構え		
尊厳の保持を念頭におき、これまで学んだ知識を活用して関連づけてください。		
成績評価基準		
期末テスト70%、小テストレポート20%、授業参加貢献10%		
授業計画表		
1. イントロダクション 認知症ケアの実際① パーソンセンタード・ケア 2. 認知症ケアの実際② アセスメントツール センター方式 3. 認知症ケアの実際③ アセスメントツール ひもときシート 4. 認知症ケアの実際④ 健康状態のアセスメント 5. 認知症ケアの実際⑤ 認知症の人とのコミュニケーション 6. 認知症ケアの実際⑥ 認知症の人への IADL 障害のケア 7. 認知症ケアの実際⑦ 認知症の人への ADL 障害のケア 8. 認知症ケアの実際⑧ 認知所の人へのアプローチ 9. 認知症ケアの実際⑨ 認知所の人への終末期医療と介護 10. 認知症ケアの実際⑩ 環境づくり 11. 介護者支援① 家族への支援 12. 介護者支援② 介護福祉職への支援 13. 認知症の人の地域生活支援① 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア 14. 多職種連携と協働 15. 介護福祉士の役割 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座研修委員会 『最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第2版』中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害の理解Ⅱ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
数中弘美	-	
科目のねらい		
障害の原因となる疾患を学習し、障害を持ちながらの家庭、社会生活を維持するための介護方法を学習する。多職種とのチームアプローチの必要性と家族支援の重要性、チームの中の介護福祉士の役割を理解する。		
到達目標		
障害のある人の心身の状態と特徴を理解する。それぞれの障害者の利用可能な諸制度及び具体的な支援方法が分かる。事例を用いて支援計画を立案する。		
受講の心構え		
自己学習として日ごろから障害に関する報道や書籍などから知識を広げること。 グループ学習を重視します。積極的に参加しチーム内の情報交換や役割分担を行い、お互いに協力し成長できる環境を作るように努力すること		
成績評価基準		
授業態度（事前準備、意欲、発言、協力性）20%、配布プリント回収20%、試験60%		
授業計画表		
1～3. 内部障害のある人の生活、身体障害者手帳について ①心臓、呼吸機能障害（心臓ペースメーカー、在宅酸素療法） ②腎臓、膀胱・直腸機能障害（血液透析、膀胱ろう、人工肛門、人口膀胱） ③小腸、肝臓機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫不全 ④内部障害で使える諸制度 4～8 障害特性に応じた理解と支援 ①知的障害のある人の生活 ②精神障害のある人の生活 ③高次脳機能障害のある人の生活 ④発達障害のある人の生活 ⑤事例検討：障害を持ちながら生活する人の支援の実際 9～12 難病のある人の生活の理解 ①難病の理解と福祉制度 ②主な疾患の理解と支援 ③中途障害による障害受容過程 13～14. 連携と協働、家族支援 ① 地域サポート、チームアプローチ ②家族の心理とケアラー支援 15. 事例検討：まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新介護福祉士養成講座14」中央法規出版 坂井建雄・橋本尚詩著「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版 関連書籍 授業内で多数紹介		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
医療的ケア I	10回	20時間
担当者氏名	担当者実務経験	
数中弘美・高橋春美	-	
科目のねらい		
介護福祉士資格取得のための必須教科です。医療的ケアを実施するにあたり必要な基本的な知識を学びます		
到達目標		
医療的ケアが必要となった背景や医療的ケアを安全に実施するための基礎知識が理解できる		
受講の心構え		
医療的ケアを実施するためには、必要な知識や技術を習得する必要があります。単位取得のために授業時間が決められています。欠席の場合は理由を問わず補講が必要です		
成績評価基準		
授業態度（準備、意欲、発言、協力）20%、演習の取り組み、提出物状況（判断、根拠、期限）20% 試験60%		
授業計画表		
1～3. 医療的ケアについて：(数中) ① オリエンテーション ② 医療的ケアが必要になった背景、医療的ケアの制度について ③ 介護福祉士が出来る医療行為について ④ 医行為、喀痰吸引等を実施するための要件とは 4～6. 安全な療養生活について：(高橋) ① 経管栄養等の安全な実施のための基礎理解 ② 救急蘇生の手順とポイント ③ リスクマネジメントについて 7～8. 清潔保持と感染予防：(高橋) ① 感染予防、消毒と滅菌について ② 療養環境の清潔と消毒法 ③ 演習：手指、消毒使い捨て手袋着脱、マスク、フェイスシールド等の取り扱い 9～10. 健康状態の把握：(数中) ① 身体、精神の観察 ② 観察状態を知る指標 ③ 緊急状態とは、介護福祉士に出来ること ④ まとめ ※喀痰吸引等とは、喀痰吸引、経管栄養の実施を指す		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」中央法規出版 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版 必要に応じ資料配布		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
医療的ケアⅡ	30回	45時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢野 由紀 赤坂結美子	授業内容にかかわる実務に看護師として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1.医療的ケアⅠをベースに「喀痰吸引」「経管栄養」を学ぶ。 2.医行為である喀痰吸引を介護福祉士として安全に・適切に行うための知識を身に付ける。 3.医療的ケアの実施手順について具体的に学ぶ。 4.講義・器具を実際に取り扱うことによって手順順守の必要性の理解を深めましょう		
到達目標		
喀痰吸引等の適応や実施中の観察ポイントや留意事項を説明できる。 器具の取り扱い方法や感染予防対策を具体的に説明できる。 医療との連携の必要性や方法が説明できる。 ※国家試験にも出題されるので、根拠を含めて理解するようにしてください。		
受講の心構え		
講義と演習を通し、正確な手順を身に付けられるように、各自で練習をしてください。 学科試験に合格しなければ、医療的ケアの演習を実施することが出来ません。 授業時間が決められていますので、欠席しないようにしてください。欠席の場合は補講が必要です。		
成績評価基準		
出席状況・授業態度 40%、試験 60%		
授業計画表		
1～8.喀痰吸引概論：（矢野） ①呼吸器のしくみと働き、いつもと違う呼吸、喀痰吸引が必要な状態 ②人工呼吸器のしくみと吸引、気管カニューレのしくみ ③子供の吸引について、利用者や家族の気持ちと対応、感染予防 9～16.喀痰吸引手順解説：（矢野） ①喀痰吸引で用いる器具と器材とそのしくみ ②口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部吸引の手順と留意点 ③喀痰吸引にともなうケア、観察と報告、感染対策とリスクマネジメント 17～23 経管栄養概論：（赤坂） ①消化器のしくみと働き、消化と吸収、消化器症状とは ②経管栄養を必要としている人の状態の理解、経管栄養実施上の留意点 ③子供の経管栄養、利用者や家族の気持ちと対応、感染予防 24～30 経管栄養手順解説：（赤坂） ①経管栄養で用いる器具、器材とそのしくみ ②経管栄養の手順と留意点 ③経管栄養にともなうケア、観察と報告、感染対策とリスクマネジメント ④学科試験		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア」中央法規出版 坂井建雄・橋本尚詩著「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
医療的ケア 演習	30回	45時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藪中弘美 矢野 由紀 高橋春美 赤坂結美子	授業内容にかかわる実務に看護師として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
シミュレーターを用い、既定の手順に従って喀痰吸引等の演習を行います。安全に正確に実施できるよう、手順や注意事項を各自で確認しておくようにしてください。講義と演習までが、医療的ケア研修制度の基礎研修になります。		
到達目標		
演習項目をそれぞれ5回目以降に正しい手順で行え、観察や報告ができる。5回目で合格できない場合は、補講とし完全に実施できるまで繰り返し実施する。救急蘇生の具体的方法が分かる。		
受講の心構え		
正しい手順で行えるよう、自己学習が必要になります。他の人の手技を見学して、メンバー全員で合格できるよう協力してください。演習は試験と同等の扱いです。参加する態度を含めた評価となることを意識して取り組みましょう。		
成績評価基準		
演習態度 30%、演習回数 70%		
授業計画表		
1～15 喀痰吸引演習 ①口腔内吸引 ②鼻腔内吸引 ③気管カニューレ内部吸引 ※上記3手技について5回目以降に確実に実施出来ると合格です 単位取得には合格できるまで実施する必要があります 16～29 経管栄養演習 ①胃ろう、腸ろうによる経管栄養 ②経鼻経管栄養 ※上記2手技について5回目以降に確実に実施出来ると合格です 単位取得には合格できるまで実施する必要があります 30 救急蘇生法 救急蘇生法と緊急時の対応 ※必ず一回以上実施すること		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア」中央法規出版 坂井建雄・橋本尚詩著「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習Ⅱ	10回	20時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい	自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。	
到達目標	字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。	
受講の心構え	伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。	
成績評価基準	まとめの試験 60% 小テスト 20% 授業姿勢 20%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 個人票を作成する。2. 封筒の宛名、差出人の住所、名前をバランス良く書く。3. 礼状を書く。4. 履歴書の書き方を理解する。5. 履歴書を書く。6. 同音異義語、同訓異義語を理解する。7. 四字熟語、慣用句、ことわざなどを知る。8. 間違いやすい表記に気づき、正しく書く。9. テーマに合った文章の書き方を知る。10. 手紙、はがきの書き方をしる。まとめの試験をする。	
使用テキスト・参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論 II	5回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
三品 あおい		
科目のねらい		
2年生になり、毎回より実践的な内容に取り組みます。 マナーを通して円滑なコミュニケーションを図り、より円滑な人間関係を築くことをねらいとします。		
到達目標		
「挨拶」「身だしなみ」「言葉づかい（敬語）」と言った、社会人として必須・基本的なことを日々の学校生活から実践する		
受講の心構え		
応対論は社会に出る前の練習の場であるので、授業で学んだことを積極的に実践して習慣にしましょう。 挨拶や敬語などマナーは他の教科や日常生活でも身につきます。欠席した場合は、次の授業で支障がないように、事前に他の学生のノートやテキストで確認しましょう。		
成績評価基準		
筆記試験25%・実技試験25%・平常点（授業での取り組み50%）の総合評価		
授業計画表		
1.円滑な人間関係を築くためのマナー・第一印象とは 2.就職面接のマナー・第一印象の重要性 3.就職面接のマナーの実践 4.職場でのマナー（報連相・整理整頓・名刺交換等） 5.まとめ・試験		
使用テキスト・参考文献		
編著者名 篠田弥寿子『ケアワーク・スキルアップ②心に手の届くマナーと声かけ』ひかりのくに マナー&プロトコルの基礎知識 NPO 法人日本マナープロトコル協会		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年	実技
科目名	授業回数	授業時間
体育Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい	身体活動を通して、心身の健康保持の大切さをしる。体力の向上とともに、公正・協力・責任などの態度を養う。生涯を通して、生活を豊かにするために、スポーツに親しむ態度や能力を養う。	
到達目標	運動に臨む態度や約束事を理解し実践する。各種の運動やスポーツに親しむことができる。せいとくスポーツ大会に受けて、協力し練習することができる。	
受講の心構え	授業準備、用具の準備、後片付け、運動への積極的な取り組みを期待します。	
成績評価基準	授業姿勢 30% 運動への取組み 40% 運動技能 30%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 授業を進める上での約束事・取り組む姿勢の確認。ミニバレーボールに親しむ。2. バレーボールに親しむ。(ルールの理解、サーブ、レシーブ、トス、スパイク)3. バレーボールに親しむ(ゲームなど)4. 長縄跳びをする。バドミントン(ダブルス)に親しむ(ルールの理解、基本練習)5. バドミントン(ダブルス)に親しむ。(ゲームなど)6. キックベースボールなどに親しむ。7. 卓球(ダブルス)に親しむ。(ゲームの理解、基本練習、ゲームなど)8. 卓球(ダブルス)に親しむ。(ゲームなど)	
使用テキスト・参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
レクリエーションⅡ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長江 集子	-	
科目のねらい		
レクリエーション支援の理論と方法を学び、対象者の笑顔を引き出すことのできるレクリエーション支援者となる。		
到達目標		
実技のレクリエーションを体験を通して学び、演習によってレクリエーションの企画・運営をすることで、レクリエーションを創造する力を身につけます。		
受講の心構え		
自ら楽しむ気持ちを大切に、積極的な参加を期待します。動きやすい服装（スカート不可）で受講してください。配布資料はファイリングしてください。		
成績評価基準		
演習 50% 出欠・授業姿勢 30% 提出物 20% にて評価します		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">レクリエーションの意義アイスブレイキングとは①アイスブレイキングとは②指導技術としてのハードルの設定指導技術としてのCSSプロセス対象者に合わせたプログラムアレンジの方法身近にある素材を利用したレクリエーション①身近にある素材を利用したレクリエーション②リスクマネジメントの方法プログラムデザインの手法アイスブレイキングプログラムの演習発表準備アイスブレイキングプログラムの演習発表①アイスブレイキングプログラムの演習発表②アイスブレイキングプログラムの演習発表③まとめ		
使用テキスト・参考文献		
公益財団法人日本レクリエーション協会出版 『楽しさをおとした心の元気づくり』 『基本のアイスブレイキング・ゲーム』 その他、必要に応じて授業時に資料を配布します。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンスII	5回	10時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・実習など学校スケジュールがある中で、いつ、何をするのか具体的な行動を理解し、各自が主体的に考え、行動できることを目指す。		
到達目標		
1. 進路について、主体的に考え、取り組める。 2. 就職活動に必要な知識や技術を認識し、獲得する。 3. 就職試験の傾向と対策を学び、自らの就職活動に反映させ行動する。		
受講の心構え		
希望する進路は、自分で「掴み取る」ものです。 「実現してもらう」ものではない。希望する進路を掴み取るために、一緒に考え行動しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする		
授業計画表		
1 前年度求人・内定の流れ、就職活動のきまりと受験等各種手続きについて 2 求人票を見るポイント 3 長期休みとそれ以降の具体的な就職活動について 4 分野別ガイダンス 就職試験に向けた対策 5 内定者・未定者指導		
使用テキスト・参考文献		
学校から資料配布		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
国家試験対策	38回	75時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護福祉士国家試験、合格を目指す。 各領域で学んだ知識を再確認し、試験攻略の技術を身につける。 また、介護福祉士として必要な知識や介護のプロとしての考え方を身につける。		
到達目標		
対象者に対応できる知識と技術を身に付け、介護福祉士国家試験に合格する。		
受講の心構え		
国家試験合格を目指す中で、専門職としての知識、プロとしての考え方を育みます。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする		
授業計画表		
オリエンテーション／授業の進め方、国家試験への取り組み方 ＝基本的な授業の展開＝ 国家試験や模擬試験の過去問題を解く ↓ 自己採点、採点結果集計・分析 ↓ 解説講義、復習、全体あるいは個別での質疑応答・解説 以上を繰り返し実施 ＝模擬試験の実施＝ 模擬試験の実施 3回（8月30日・10月18日・11月22日予定） ↓ 採点結果集計・分析 → 全体あるいは個別での質疑応答・解説		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士国家試験受験対策研究会編『介護福祉士国家試験模擬問題集 2024』中央法規 暗記マスター編集委員会編「らくらく暗記マスター 介護福祉士国家試験 2024」中央法規 いとう総研資格取得支援センター編「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2024」中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
介護技術検定	23回	45時間
担当者氏名	担当者実務経験	
柳沼 輝己	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	自分の行った介護の説明ができる根拠ある介護技術の展開ができるよう、技術力だけではなく、コミュニケーション力、臨機応変な対応力が身に付く事を目指します。また、自分でスケジュール管理をして、行動できるようになることも求めます。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・根拠ある介護技術の展開ができる。・臨機応変な対応ができる。・その場に合わせたコミュニケーションがとれる。・他者と調整しながら、行動することができる。	
受講の心構え	技術の真似では、根拠の説明ができるような練習をしましょう。その人らしさや生活を意識したかわりをしてください。	
成績評価基準	各段階の評価基準に従い評価し、60点以上で合格とする。	
授業計画表	<p>実施期間：2024年11月末日まで 実施段階：D段階は2024年5月31日まで（期限までに修了することが実習に行くための条件） ：E段階は、2024年9月末日まで ：F段階は、2024年11月まで（期限までに修了しない場合は再試験扱いとする）</p> <p>合格基準：各段階の評価基準に従い評価し、60点以上で合格 受験の流れ：①事前練習の実施 ②介護教員への申し込み、受験日の決定 ③受験し合格であれば、次の段階へ。</p> <p>注意事項：受験は1日1回とする。 受験票が無い場合は受験できない。 11月末日までに修了しない場合は、1段階ごとに再試験料が発生する。</p>	
使用テキスト・参考文献	学校配布資料および各自必要なテキスト使用	